テ-5

臨床実践につながる看護技術教育の検討
－状況論的アプローチに基づく評価視点を導入して－

鈴木ひとみ、十九百君子、尾﨑雅子、谷口由佳、
南部由江、鎌田美智子、長尾厚子

看護学生が基礎看護技術の講義・演習で何を学び経験しているかを明らかにし、臨床実践につながる看護技術の教育方法について状況論的アプローチの手法を用いて検討することを目的に、単元「清潔援助技術」の従来の教授法を状況論に基づいた視点で見直し、改善した講義・演習を看護系大学 1 年生 85 名に実施、そこでの学びを記述してもらい平成 24 年 11 月～平成 25 年 2 月にデータとして収集、質的帰納的に分析した。なお、本研究は神戸常盤大学研究倫理委員会の承認を得た。80 名のデータが回収でき、回収率は 94%であった。今回、講義では清潔援助の特徴のみを伝え、方法や使用物品は学生自身が様々な資料や物品を確かめて決定した。そこで学生は、「教科書にある物品や方法の妥当性への疑問」「使用物品の選定と使用法の判断への迷い」「患者に適した援助計画の難しさ」「患者の自立を尊重することの重要性」「患者の安楽への更なる配慮」を学んでいた。従来の教育方法を状況論的アプローチに基づく視点をもって評価したことで、教授者がこれまで無意識に学生に規定していたことが、学生の自律的な学びを阻んでいたとわかった。そして道具に触れ、対象を想像しながら援助を計画する過程を重視する授業展開に変換したことで、学生は自ら発見や疑問を動機に、主体的に学習を進めることができ、教科書通りではなく対象にとって最適な方法は何かを考えることができた。

テ-6

精神看護学実習を受けた学生の学びと評価

川﨑　絵里香
河野　あゆみ　　松田　光信

目的：我が国の高等教育は、思考力や表現力の育成を目指す教育へと転換している。我々が担当する精神看護学は、目に見えない人の心を取り扱う為、看護師には思考力や表現力が特に求められる。このような能力の向上をめざして、実習においては、詳述する記録方式と発問を重視した指導を採用している。本研究の目的は、精神看護学実習を受けた学生の学びの内容と教育方法に対する認識を明確にすることである。
方法：精神看護学におけるカリキュラムは、3 科目の講義後に実習を行う構成である。実習目的は、1)患者の総合的理解、2)患者-看護師関係の構築、3)看護援助の方向性の明確化である。本学学生を対象に実習終了後に集団面接を実施し、その逐語録を内容分析した。倫理的配慮として予め本学倫理審査委員会の承認を得た。
結果と考察：対象者数は 22 名であった。学びの内容として、目的 1)に当たる【情報の関連性に気づく】等の 11 項目、目的 2)に当たる【自己の言動の振り返りになる】等の 4 項目、目的 3)に当たる【理論と実践のつながりを理解する】等の 5 項目が抽出された。これらを導く教育方法には【詳細に記録する】等 11 項目があげられた。学生は目的に合致した学びを得ており、これらの学びには詳細な記録方式や発問重視の指導が特に役立つことがわかった。今後もデータを蓄積し教育方法を洗練させる必要がある。